宗像

毎月一日発行
発行所
宗像大社
宗像
福岡県宗像郡玄海町
電話神湊133番
定価一年送料共　500円

謹賀新年

「宗像人は和の日本民族のチャンピオンたれ」

宗像大社復興期成会長　出光佐三

七〇年代に予想される日本の大きな発展が世界中の注目の的となっている。これはわが国が敗戦後二十五年にして、世界の日本としての重要な地位を占めるに至ったことを示すものである。

一方、世界そのものはどうかといえば、二十五年間、対立斗争に明け暮れ、完全に行き詰まっている。そして核爆発による全滅の恐怖におののきながら、世界全人類は真剣に平和を探し求めている。この世界中の人々が探し求める平和こそ、日本民族が皇室を中心として二千数百年にわたって平和に仲よく暮してきた歴史そのものである。今日、世界を旅行したとき、各国の人々が異口同音に言うことは、日本が皇室を中心として仲よく一致団結しているあの姿が羨ましいということである。この和の力こそ、我が国をして世界の日本たらしめた原動力である。

日本民族のこの和の姿の基礎をつくられたのは、宗像御三神にほかならない。天照大神は天孫降臨に先立って宗像御三神に「天孫を助け奉って天孫に祭かれよ」という御神勅第一号をあたえられた。ここに君臣の別が出来るとともに、宗像御三神は御神勅を体して皇室を助けられるとともに自らは皇室の手厚い祭りをうけられることになった。大和朝廷時代からその後京都の御所の中に二千年以上にもわたって宗像神社が祭られている事実はこれを物語っている。

日本の皇室は世界で唯一つの尊い存在であるが、それを理論や理屈でなく、事実として証明するものが京都の御所である。京都の御所は一千年以上の長い間、平地に無防備で、而も極めて質素におられた。無欲、無我、無私の形そのものである。ところが、外国のエンペラー、キング、皇帝、国王は我欲の征服者であるが故に、国民大衆を搾取して自らは城壁にとり囲まれて金殿玉楼に住み、ぜいたくの限りをつくしている。従って長くて数百年しか続かず、新しい征服者によってほろぼされている。そういう征服革命と対立斗争のくりかえしが外国の歴史である。日本の無欲の皇室を中心として二千数百年の平和の歴史に比べると根本的な相違である。その結果、日本民族と外国民族との間にはその民族性に白と黒の違いともいうべきギャップが出来てしまった。たとえば譲るということは日本の最も大事な道徳であり、平和をつくる基礎であるが、外国人には権利の放棄、邪道、罪悪となるのである。

そういう外国に対して日本の和のあり方をいかに口や理論で説明してもわからないはずがない。日本人が和の実体をつくってみせる以外にないが、私はこれを日本人の世界的使命と言っている。殊に国民の祖神である宗像御三神が鎮座される神都宗像は世界の平和、人類の福祉に対して特別の重大使命があるといわねばならない。宗像人が和の日本民族のチャンピオンとして、世界人類に平和の在り方を教えるという高い尊い目標をもって進んでもらいたい。

論説　富士を仰ぐ

江戸城を築いた太田道灌が、その昔、詠じた歌「わが庵は松原つづき海近く富士の高根を軒端にぞ見る」は、今日のスモッグの東京では、想いもよらぬ姿態を呈している。東京の空模様が霊峰を見せなくなってきたのは仕方がないが、富士の姿は依然として駿河路に聳えて、種々な想いを見る者の目から集めている。「元朝の見るものにせむ富士の山」や「一富士二鷹三なすび」は、元旦を迎えて神秘幽清浮世の迎春意識を強めるわが民族の習俗を伝えた詩句であろう。古来富士の霊峰は、わが民族の心を伝えて今日なお日本の心を象徴している。文人墨客の心を強く打って、名ある詩歌や、画幅に残されているが、それは歌人画家だけの感懐でなく、民族すべての共通感と言えよう。

然し、富士が詩歌にあらわれ、絵画に取られたのは江戸時代からで、平安朝の歌好みの大宮人は東海道を旅する機会もなく、殆んど歌にしていない。鎌倉時代でも富士の裾野の曽我兄弟の仇討ちに、その名をあらわしているだけで文人墨客の取材は極めて稀である。

ここでは富士の歴史を説こうとするのではない。富士の持つ日本の心を称揚と共に想い起して、民族の伝承した神秘観や、清浄観親和観を味わいたいのである。東海道を旅した江戸時代以後の種々な境遇の人々、白雪の霊峰を仰いでそれぞれの感懐にひたり、それぞれの人生道路を教えられもしたことであろう。

「もののふの赤き心も白雪の富士の裾野を過ぎし悲しさ」は、吉田松陰が江戸護送の道中を哀れんで、若い女性が詠んだ一首である。国事に奔走して、死の待つ東への旅、松陰の苦衷が胸を打つ。主君の無念を晴らすため、同志と共に関東下向の大石良雄も、霊峰を仰いで、武士道の意気地を強感し、素志貫徹を祈って過ぎたであろう。その外にも史上の人士、京へ上る者、東へ下る者、それぞれ霊峰に種々の感懐を寄せ、鉄石心をさえ奮ったことであろう。

元朝に富士の実姿を仰ぐことは出来なくても、富士の絵画や遺跡に清浄観を意き起し、新しい年の幸福を祈願する人は、現代でも多かろう。この心境は外国人には理解しにくいかも知れない。基督教を信奉する民族は、クリスマスに異なる感懐を呼んでも、元旦に改まった神秘観など持つことなく、ただ、紀元の年数が一つプラスしただけの事務的な意識があると思える。ここにわが民族の富士を仰ぐ心、元旦と霊峰を結びつけて日本の心を知るよすがとする特性と、大きな宿根底から違った民族性の異色が彩られている。

「東海道線で富士山の下を通ると、感心して眺める人の気が知れない。富士は火山のあとで、土が平地にもりあがっているだけだ。高いから雪をかぶっているだけだ」と述べたヘソまがりに出会ったことがある。万事を理屈で片づけ、唯物的に事象を解釈して、情緒の片鱗も胸中にない人物はまことに哀れと言う外はない。

戦後二十余年、わが国の産業経済はめざましい復興を遂げた。何は世界何位だと機械的な復興進展だけを誇ろうとするが、精神面は果して復興しているであろうか。この面で世界何位と言える点が見出されようか。ある中国人が述べているように、現代の日本は世界一の自由な国民で、同時に世界一のわがままな国民であると。物質文明の行き詰りは、対立抗争の世相を将来し、権利の主張のみに終始する風潮を生む。

古い言葉だが、報本反始の精神面の復興、民族的良心の復活が強調されはじめた所以である。評論家は政治や、教育の欠陥を指摘するが、根本的な問題は日本の心に復り、民族の精神文化を深く顧みることである。われらの血と魂の根源を探究し、祖先の残した貴重な精神的遺産を護持することである。世界に冠たる名峰、富士を仰いで、日本の心を大初にしなければならない。

江戸時代の漢学者浅見絅斎大人が、富士を讃えた七言絶句を遺している。雄姿に寄せた古人の詩情は、今もなお生きつづけているのである。

秦皇採藥竟難逢
東海仙山是此峰
萬古天風吹不折
青空一朶玉芙蓉

かって一高賛歌が、富士の精に吉野の桜を結んでいるが、その歌心をかみしめたいものである。

阿蒙少言

歳末年頭の雑感一束を、少言の箱に投ずる。○十二月選挙も珍しく、ボーナスを狙う商戦と、一票を集める作戦が交錯して、文字通り師走のあわただしい風景。商品の表示にウソがあっても、公約の看板に詐りがあっても、信頼を失うことになる○忘年会について、新年宴会、仕事と宴会がつながる社会慣習は、日本人の悪癖と非難する向きもあるが、急に襟を着た態度に変れば、人間関係に破綻が起ろう。李下に冠を正さない自戒は堅持したい○季節に応じ、吉凶にあたって、酒食贈答が多いのは、長い時代に作られた民俗感情で、一概に理屈っぽい欧米流の批判もどうかと思われる「袖ふり合ふも他生の縁」「縁は異なもの味なもの」「旅は道づれ世は情」など外国にない優しい人情美の表現○大晦元旦の節目にまたがって、謹賀の絵模様を展開する人間界。花やかに見える宴能人もまた一段と忙しい季節と聞く。悲劇のヒロインに扮する女優は概ね陽気で、憎い悪役を演ずる俳優は良い人ばかりと、ある劇評家が述懐した○「稲根山かごに乗る人かつぐ人そのまたわらじを作る人」古い俗諺だが、バカンスを楽しむ者、きびしい稽古を積んで妙技を演ずる者、それを助ける裏方、人生をつなぐ欲望の糸は互いに強い結びがあって、断絶はない。○交通事故や、公害は新しい年も重大な社会問題として、論議を呼び、対策が求められてやまぬだろう。地域発展のため、工場誘致、それが公害の嘆きとなり、交通緩和のため、新道建設、それが文化財破壊の憂慮となる。もろもろの施策の前に、天は二物を与えぬ妙理を考えねばなるまい○喧噪の年、傷だらけの政治教育の舞台が終ったのではない。政治も教育も当事者の強い反省があって、失敗がよき分別を生むと言えよう。

（白雲）

謹しんで新年の御祝詞を申上げます

昭和四十五年元旦

宗像大社宮司　久保輝雄

他職員一同

宗像会員諸賢の御清栄を遥かにお祈り申上げます

「宗像」編輯部

神具、装束
結婚式場用品
株式会社　井筒
福岡支社　福岡市吉塚西林寺町四九五六　西林寺内　電話㊸
本社　京都市下京区油小路通六条北入　電話　京都㊱
ハ六六・一三四番
ハ六六・九六八番

1970

交通安全宗像大社の　御神徳をたたえ奉りて

謹しんで新年の御祝詞を申し上げます

福岡日産自動車株式会社
取締役社長　安藤信夫
福岡市千代町二丁目六十一番五
電話　大代表㊹三一六一番

福岡日産モーター株式会社
取締役社長　原口孝彦
福岡市大字那珂字淵高一〇六番地
電話　代表㊶六六三一番

日産サニー福岡販売株式会社
取締役社長　茅原茂
福岡市東光寺深町二一七一番地
電話　㊶四一三二一番

日産サニー北九州販売株式会社
取締役社長　菊竹保平
八幡区穴生字古作浜七〇番地の一
電話　代表㊷二一三六番

日産プリンス福岡ヤナセ株式会社
取締役社長　岩永政定
福岡市露町一四五番地
電話　代表㊷一二二一番

日産コニー福岡販売株式会社
取締役社長　中島憲
福岡市東光寺町二二四番地の一
電話　代表㊶二七六四番

日産ディーゼル福岡販売株式会社
取締役社長　山内敬一
福岡市比恵屋敷町三十三番地
電話　代表㊶一八三一番

宗像談話室　家庭のお祭りとお祝い（一）

一、家庭の神だな

㈠神だなの位置と方角

神だなを設けて神霊をまつることは、家族親和、祖先崇拝の精神を伝えたわが民族の伝統的美風と言えましょう。氏神さまをまつる神社が、氏子全域の精神的中心として守り伝えた歴史があるように、家庭の親和、繁栄、幸福を守る中心が、神だなにあると民族信仰が生きているのであります。

したがって、神だなの位置は、清らかな日常親しみやすい処を選びます。その方角は概ね南向きとします。これは南方角は陽気で明るい日ざしを受けるから、逆の北の方角は陰気で神だなの向きとしては避けねばなりません。神さまをはじめ、仁慈愛育の徳を垂れ民衆の幸福を守る聖者は、南を明るく照らすとするわが上代思想に起源するものでありましょう。南の方角が家屋の構造上の都合などで得難い時は、東向きにしても差支えありません。

㈡神だなの祭り方

神だな宮形にお札をおさめ、その扉の前正面に、神鏡をおき、左右両方にお神や燈明立てなどを備えます。しめ縄を張る場合は、ないはじめの方を向って右に、細い末端を左にしてかけます。一般に向って右方を上位と心得ておかねばなりません。

おそなえ物のあげ方は、通常米、塩、水をさんぽうおおきにのせて献げます。米のかわりにだいたい飯の初穂をそなえる習慣もありますが、それでも結構なことです。四季折々の果物や珍しいときは、先ず中央から右左と次々に外方にそなえ、偶数のときは、先ず中央からやや右側に最初の一台を、次に左側に次は右という順序に、向って右方の上位から左方

おそなえを盛るさんぽうおおきの位置は、それの数が奇数か偶数によってちがいますが、奇数のときは、先ず中央から右左と次々に外方にそなえ、偶数のときは、先ず中央からやや右側に最初の一台を、次に左側に次は右という順序に、向って右方の上位から左方の下位に拡げてゆくようにいたします。さんぽうおおきが一台で、それに何種類かのおそなえ物をのせるときは、やはり中央から右左の順に盛ること。その台数の多い場合のそなえとは変りません。

おまつりの仕方は、一般神社の参拝の作法に準じます。手を洗い、口を清めて神だなに向い、心もちをおちつけて、静かに二拝・二拍手・一拝を行います。しかし、日常生活の多忙の中に、毎朝夕行う拝礼としては、これを簡略にしても差支えないことです。

㈢神だなに祭るお札

神社がわかつお札には、分霊と身につけるお守りとがあります。広い意味では、どちらも授受する神社の神さまのみたまが宿られているしるしであって、神恩をいただくためおがむ対象であります。神だなにはお札をまつります。身につけるお守りには、お札と同様また一般神社の祭儀に準じて、祓い詞や祝詞を奏上して、おごそかな拝礼をする場合もありますが、毎月一日と十五日、国の祝日、家庭の慶事祝日等に、特に鄭重なおまつりをして、神恩を感謝し神徳の恵みを頂戴する精神はよい事でありましょう。

しかし、福徳や、えびすだいこく像など、お守りと同じ性質のものが、神だなにまつられている例を見うけますが、これは本来の神まつりの姿ではありません。

にわかみたまとして、神さまの恩恵に預るためのものと、持つことによって厄よけや福運の神助が得られるためのものとの二種の本質が考えられますが、お守りは通常神だなにはまつりません。

×　×　×

賀　春

宗像大社御用達

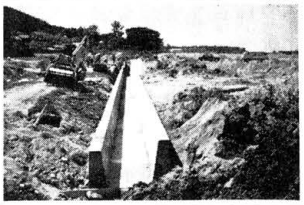
有限会社　大和印刷所

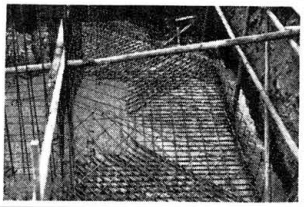
宗像郡宗像町東郷　電話 宗像 2027番

復興工事
本年初頭着手へ
―関係者工事調整始まる―

当宮復興事業は、既報の通り着々と進渉し、特に御本殿修理工事は昨年内に解体工事を終了、今後は引続き損傷部分を修復補強して、昭和四十六年六月迄に復元竣工の予定であるが、これと併行、歩調を合わせて、境内整備工事も一挙に推進完工の計画を樹て、着々と準備を進めているが、先般、本事業諸建造物の建築担当業者に、鹿島建設株式会社が決定、早速現地の測量調査が進められている。

そして昨年十二月十日、本事業関係業者との初会合が神社斎館に於て行なわれた。当日は、設計担当の伊藤要太郎氏、建築工事担当の鹿島建設株式会社、造園工事担当の内山緑地建設株式会社、給排水工事担当の明和設備工業株式会社の三業者代表と、復興期成会内田事務局長、久保宮司外、神社職員五名が出席し、工事一工に関する諸問題について長時間に亘り熱心に討議が交わされたが、特に当日の主な議題は、神社日常社務の執行と工程との調整についてであった。即ち当社参拝車輌は年々増加の一途を辿り、日曜、祭日、更に正月を迎えては、境内に車が満





ち溢れ、その整理に大童の現状であり、今後の工事施工、特に楼門前の心字池復元を含む造園工事の施工により主駐車場を失い、参拝車輌は全く収拾不能の混雑状態に陥ることは火を見るより明らかである。この弊を緩和する為には、神社正面鳥居前面に建設予定の祈願殿並びに駐車場の完成が一日も早く待たれる訳で、遅くとも昭和四十六年の正月祭に間に合うようにと、神社側は要望したが、業者側はこれを了承、昭和四十五年十一月迄の完成を約して頂いた。従って神社私祭斎行の場が右祈願殿に移った後に境内各所の造園工事が急ピッチで行なわれることになるのである。もっとも、神社日常社務に差支えない場所での諸工事は、早々に着工推進の手筈であるが、何れにせよ、今後約一年有半の間に、而も神社社務と工程との調整を考慮しつつ施工しなければならない業者の御苦労は並大抵ではなかろうと推察される。会合は種々討議の後、解散したが、輝やかしい昭和四十五年の新春を迎え、復興の槌音は、愈々高く宗像の神苑にこだますることであろう。

新年を迎えて

氏子会長　立石　昇

新年初目出度うございます。私たちは、先づ、清らかな心で神前にひれ伏して、国の弥栄（いやさか）と家族の幸福、社会の平和とを祈りましょう。そして日本人としての心を新たにいたしましょう。我が民族の祖先を祀る神社崇敬こそ、新年初頭の心構えではなかろうか。そして新しい年の出発を神に誓いましょう。国の繁栄あって初めて国民われらの幸福もあるのです。

今年は所謂、七十年代へ出発の年です。底知れぬ混迷と汚濁の年を送って、政治的とか何とか解決されなければならない年、道義的にも思いをひそめて反省し、永い歴史を持ち、輝やかしい明治維新の伝統をもっている日本民族は、卒然として、本来の面目に立ち還り、新しい道をもとめて進むべき年ではないでしょうか。明治維新に匹敵する重大な年代への出発です。

ご承知の通り、宗像大社の神殿は既に修繕工事にかかり、その復興事業には、数億円の巨費が投じられる訳ですが、出光復興期成会長は「この事業は、建物を立派にするのではない。それに依って日本人の心を復興するのだ」と言っておられるそうです。まことに深い信仰から生まれたおもんばかりが感ぜられます。

国民総生産高は世界の第二位を誇る日本の経済的復興に反比例するかのように、道義の廃頽が目立つ昨日、今日です。かっては東洋の君子国として道義の高い国と評価された日本が、今では諸外国人から「魂なき繁栄」とか、「エコノミック、アニマル」（経済的動物）と蔑称で呼ばれていると聞くとき、まことに残念でなりません。

私たちは年頭に当り、大いなるものの前にへりくだる謙虚さを持ち、神の恵みを待つ安らかさを求める信仰を深め、道義高揚にいささかなりとも、貢献したいものと思います。

初春に大社国宝展
北九州市井筒屋で

宗像大社国宝展が毎日新聞社主催で、新春一月四日から十二日まで北九州市小倉井筒屋百貨店で開催される。昨年、毎日紙は朝刊一面中央に「まぼろしの沖ノ島秘宝初公開」と題して次のように報じている。

『〝海の正倉院〟といわれるまぼろしの神の島―沖ノ島の代表的秘宝を一堂に集めた「宗像大社国宝展」を新春、北九州市で初公開します。

きびしい禁忌と信仰でまもりぬかれた大和朝廷の祭祀神宝は考古学界を驚嘆させた発掘けんらんたるもので、展示品は国宝だけでも二百余点。みなさんの前に初めて神秘のベールを脱ぐわけです。ご期待下さい。』

当社宝物展については、今まで各地から公開申込みがあったが、諸般の事情から実現を見ず、東京の出光美術館と大阪の市立博物館の二カ所で開催しただけであった。九州では、大社宝物館において展観することを運営方針としてきたが、御復興を前に、広く一般の方々に宗像大社を御理解いただくために、この度方針を変更して、毎日新聞社の申出を許諾したものである。

この度出品されるものは、木造石造の両狛犬、銅鏡＝三角縁神獣鏡、内行花文鏡など二十面、玉類＝硬玉勾玉、碧玉管玉、馬具類＝金銅杏葉、金銅雲珠、滑石模造品＝人形、舟形、馬形、三彩釉陶器残片など国宝関係二百五十余点である。尚、この度の沖ノ島調査出土品は含まれていない。

『沖の島』を放映
二日、NHKテレビで

玄海灘の孤島「沖ノ島」が一月二日午前十一時三十分、NHKテレビ「西海」で放映される。NHK取材班は、しばしば沖ノ島を訪れ、小鳥の生態、亜熱帯植物群、宗像大社沖津宮の祭り、古代祭祀遺品等を取材している。

賀　春

福岡国際カントリークラブ

西日本最大のチャンピオンコース

福岡県宗像郡宗像町朝町

電話三五四四・三五五四番

1970

交通安全宗像大社の　御神徳をたたえ奉りて

謹しんで新年の御祝詞を申し上げます

信頼のマーク TOYOTA　福岡のトヨタグループ

福岡トヨタ自動車株式会社
取締役社長　金子道雄
福岡市渡辺通り4丁目9番25号　電話(代)76―3331

トヨタカローラ福岡株式会社
取締役社長　古林壽男
福岡市長浜2丁目1番5号　電話(代)77―7631

トヨタオート福岡株式会社
取締役社長　金子道雄
福岡市大字竹下567　電話(代)41―5511

福岡トヨペット株式会社
取締役社長　川本節雄
福岡市大字比恵92　電話(代)41―1121

トヨタカローラ博多株式会社
取締役社長　久恒鉱造
福岡市大字堅粕字小柳91　電話(代)41―6388

トヨタオート北九州株式会社
取締役社長　川本節雄
北九州市八幡区黒崎大字熊手　電話(62)―4931

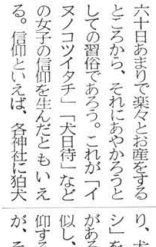
ダイハツ　福岡ダイハツ自動車株式会社
取締役社長　杉目昇
福岡市比恵三十五番地
電話代表㊶一三三一番

今年は戌年

昭和四十五年は、十二支でいう戌年である。

戌は〝犬〟とされ、他の十二支同様我々の生活の中で親しまれている。犬は古代から人間生活に結びつき、その進歩と共に繁殖してきた。犬が家畜の最初のものとして飼いならされたことは世界各地共通の事実で、イヌと人間の生活がいろいろと結びつき発展してきた。

我が国に於いても例外ではなく古く文献にも散見するところであり、古典等に人名もしくは官職名としてさえ見える「犬養」「犬養部」「犬上真主」といったものがそれである。推古天皇御代の遣隋使、犬上君御田鍬はその代表的人物で、身分のいやしい者につく人名や官職名ではなかったようだ。また地名としても犬塚、犬山、犬飼等が各地に見えるが、これも人間生活との結び付きが強い由縁であろう。それ故に人間社会の習俗の中にも様々の形で生きている。



がもすごい面もちで据えられている。「ア」「ウン」のかたちで一対という。昔、高麗より入ってきたもので、正確には犬ではないが、日本では犬のイメージを強くして受け入れられている。

似たものにイヌハリコがあるが、もとは犬に型どった張子細工の類で、小児誕生のときに用いた妊婦が岩田帯などといって戌の日に着帯するが、これも犬が受胎後六十日あまりで楽々とお産をするところから、それにあやかろうとしての習俗であろう。これが「イヌノコツイタチ」「犬目待」などの女子の信仰を生んだともいえる。信仰といえば、各神社に狛犬が、その頂に達したものが「犬公方」と呼ばれた徳川五代将軍綱吉で、生類憐れみの令を出したほどであった。

ここまで行けば行きすぎで、役立つ犬は別として何の役にも立たない犬自身、さぞ面はゆかったことであろう。因みに戌年を歴史上眺めると、大化改新から、今年まで二六一年ある。この中で興味をひく戌年をぬきだしてみると、和銅三年には平城京に都が遷される。延暦十三年平安京に都が遷される。弘仁九年宮中の行事に唐の礼儀服制が用いられるようになる。寛平二年宮中で天地四方拝が行われる。

被の具であった。

他に犬神信仰といわれるものがあり、犬が人に憑くことが「イヌオトシ」をしたとか小耳にはさむことがある。おキツネ信仰と非常に類似し、特定の神社の神にあてて信仰すると至った。これらの信仰

古式ゆかしい
古式祭お座と鎮火祭

当社の伝統ある古式祭が十二月十五日午前六時、暁闇の寒風をついて厳粛かつ盛大に斎行された。

この祭りは新嘗祭ともいうべき行事で、その起源は古く、建武元年（一三七五）の社記以来八百年からの伝統を誇っている。

祭典の神饌には特殊神饌として、菱餅、九年母（みかんの一種）ゲバサモ（海藻の一種）が特製の竹籠に立てられ、柳箸を添えてお供えされた。

拝殿に於ける祭典が終了すると、引続いて清明殿では地元氏子の中から部落当番が主体となって「お座」が開始された。

早朝吹雪がちらつく中を人々は三々五々参拝し お座に着く。お座が満座になると神職のお祓いが行われ、恒例の「くじ待」が配られ、お座の終わりまでふところに仕舞われ、開封されない。

お座は、新米に坐って豊穣の剛立てられた御飯を栗の笹でいただく。神に新穀をお供えして人々も共にいただくという「神人相嘗（あいなめ）の厳粛な行事である。

御座の順序は、一、祓い　二、幣引　三、挨拶　四、神事　五、打込み　六、福くじ　七、打込み　八、汁　九、供物となっており、最後の打込みで「えーいシャン〜〜、もーつシャン〜〜おめでとうございます」と手じめをして一番座は終わりとなる。やがて三番座が始まる頃、拝殿に於いては、鎮火祭が斎行された。この祭は「ほしづめの祭」と称され延喜式祝詞の中に火結神の荒ぶを水神、ひさこ植山姫、川菜を持ちて鎮め奉ったところから始まる。祝詞奏上の後、古式より斎主が火打石をとり忌火をきって点火する。炎の上った時ひさごに水を入れて振り注ぎ、次いで川菜をかけ、更にその上から赤土を塗い、鎮火が行われた。この後、宗像警察署長、郡内町村長消防団長が玉串をささげて来る年の平穏を祈る古式ゆかしい鎮火の儀式がとどこうりなく終了した。

宗像大社歌会
本年上半期兼題決る

師走の十四日（第三曜日）午後一時から、当社歌会互選会が開かれ、この席上昭和四十五年上半期の互選会兼題が一括決定された。

決定された兼題は、

一月　新年雑詠
二月　冬の花
三月　ひな節句
四月　春雑詠
五月　端午節句
六月　新　緑

である。各月とも従来通り第三日曜日が互選会日とされ、午後一時から開かれる。詠草〆切日は各月とも五日〆切。宗像誌に掲載する詠草は毎月十五日〆切。

正月諸準備整う

昨年十二月四日、午前十時より当社斎館に於て年末年始の祭事及びその対策の打合せ会が行われた。

例年通り宗像警察署、宗像土木事務所、宗像保健所、西鉄赤間営業所、玄海町消防団の各関係者に出席願い、正月中の道路の保全、参拝車輌の整理、露店の食品衛生等にわたって協議いただいた。

席上、当社本殿（重要文化財）解体工事を昨秋より曾々と進めているが、この工事に併せ新祈願殿の建築工事も年早々より始められ、昭和四十六年の正月祭には、新祈願殿と新駐車場を使用し諸祈願が行われる予定となっている。したがって本年の正月は現状の形で迎え、初詣での参拝客、車輌客足を率いて応戦した。

文永十一年蒙古の兵三万、船団を組んで北九州を襲い、対馬、壱岐筑前に上陸、時の宗像大宮司は、文永十四年秀吉太政大臣となって豊臣の姓をうける。（略）

天正十四年秀吉太政大臣の参拝者及び誘導を標識等で万全を期し、参拝者をお待ちする旨の事情説明が、当社担当職員からなされ、参拝者及び車輌の前年度の記録を基に協議がなされた。

この決定事項にもとづいて諸準備が進められ、標識等も昨年以上に多くなり皆様に楽しいドライブ初詣でをしていただけるものと当社では予想している。

一日、午前零時から車輌は、釣川沿の県道を一本の光となって延々と連なり、夜通し途絶えることなく陸続と列を連ねる光景が現出する。時間にに、八百台の車が境内に吸込まれる。これらの車に一台の事故もないのは関係各位の御尽力によるものである

話題の新車をみる（三五）
ミニカ70の巻

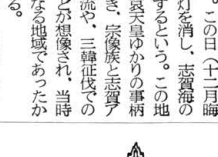
殿様経営から前垂れ商方へ、最近の三菱重工自動車部門はまことに積極経営である。河野社長時代に交替したいすずの業務提携も牧現社長になると解消、そしてクライスラーとの提携、七月はミニカの新モデル、十月には、コルトの新モデルを出すと云うふうにすさまじいばかりである。

ミニカ70、昨今さかんに報道機関を利用して宣伝されているのでよく御存知であろう。云う迄もなく、三菱ミニカのモデルチェンジ型なのである。水冷と空冷の二種類からなり、新旧の比較をすると、水冷旧、最高出力23Ps 5500・rpm水冷新、最高出力28ps 6000rpm空冷旧、最高出力21ps 5500rpm空冷新最高出力26ps 5500rpm、この新型車の最大の特徴は、広いガラス面積、広いドア面積、リヤ、フラップである。このミニカ70には実に面白いネットネームが数多くついている。日く、水冷エンジンをイエローエンジン、空冷エンジンをイエローエンジン、広いドアをジャンボドア、リヤ・フラップをレジャーウインドウ、何となく新奇をねらって面白いではないか。室内はしかに広い。そして高級プレタンフォーム、ミトを仕様、まことに、乗心地がよい。トランクスペースの上には撫いある。その下に大きなトランクスペースがある。ルームの中なので、雨の日も濡れる事なく、荷物が室内に出せる。そしてリヤントのバックレストを前に倒すと、丁度バンのような荷物スペースとなる、よく考えたものである。エンジンは2サイクル356cc最高速度110Kmhである。

年毛神社
神郡宗像
摂末社を訪ねて（七）

神楽より津屋崎まで、真砂の浜が数十キロ走る。勝浦浜、勝浦潟、白浜、塩浜と続く海浜名勝地である。その勝浦潟の地に年毛神社がある。

御祭神は志賀海社の三神で被いの神である。祭は現在、二月二十七日の年越祭、九月二十九日の例祭、十一月二十九日の新賞祭、三月二十八日の御座祭である。「正平年中行事」に七十五社の一社として見える神事の条からは幾分の変遷があるかがえる。これは社が火災にあっての為、新たに建立された日付が加えられて



いる為であろう。年毛神社由緒に「往昔息長足媛尊三韓ヨリ凱旋、当村ノ東岳二登リ坐テ、加津羅ト詔ヘリ云々、此時二姫志賀住吉天神等ヲココニ祭リ給ヘリト云。塩竈神ハ其後二併ス祭ル所ナリ云々」と見え、其のあとに社の炎上の後、沖より大きな火と共に浪にのった石が寄せ来て、祭られたいきさつが見える。この日（十二月晦日）は今でも灯を消し、志賀海の神様をお迎えするという。この地に語られる伸哀天皇ゆかりの事柄を含せ思うとき、宗像族と志賀アズミ族との交流や、三韓征伐での両族の地位などが想像され、当時の当地がいかなる地域であったかがうかがわれる。

夫木集廿四巻　後九条内大臣

秋の夜の汐干の月の桂潟
山まへつづく海の中道

× × ×
× × ×

謹賀新年

白砂青松の中に
玄界灘を望む

玄海ゴルフ場

福岡県宗像郡玄海町
電話宗像代表二三六七番

1970

交通安全宗像大社の　御神徳をたたえ奉りて

謹しんで新年の御祝詞を申し上げます

福岡いすゞ自動車株式会社
取締役社長　渡辺藤吉
福岡市比恵新町一二一番地
電話代表㊶一五三一番

北部九州いすゞモーター株式会社
取締役社長　横山隆正
福岡市西堅粕二丁目六十番地
電話代表㊶六二六一番

株式会社マツダオート福岡
取締役社長　西亦次郎
福岡市比恵新町十八番地
電話代表㊶六〇三一九番

福岡日野自動車株式会社
取締役社長　植竹陽介
福岡市堅粕御塔後一三九五番地
電話大代表㊹一一七一番

九州三菱ふそう自動車販売株式会社
取締役社長　早瀬彰
福岡市大字箱崎高須磨町四二三一の二番地
電話代表㊹八一八一番

九州三菱自動車販売株式会社
取締役社長　西崎克己
福岡市薬院露切町三十一番地
電話大代表㊷一四一一番

国際モータース株式会社
取締役社長　中井隆
福岡市白鷺町七番地
電話代表㊶八一三一番

宗像大社献詠 俳句作品集（八十五）

冬の虹立てば明るし河田あと　大井　吉田ますみ

名を秘めて供へし菊のかをりかな　津屋崎　芥野　茂

庭木みな我に従い雪化粧　久留米　篠田太郎坊

清閑や崗の一鉢部屋の中　福岡　広田　美津

冬晴れやメインマストに校旗鳴る　東京　小浦登利子

七曲り今来し道の霧に失せ　門司　永島　哲夫

石路の陽に容れて妻撮る神の前　古賀　白石百合蔵

北風や手を懐に読書する　田島　有吉　唐睦

大鉢の明滅ツリークリスマス　田熊　小野角次郎

炉開いて冬のかまえや師走入り　京都路　草

師走風赤穂のうしを偲ぶ夜　福岡　忘雪

テレビ切って寂おとなふ窓を閉づ　田熊　小野かをる

出光佐三一問一答シリーズ ㊶

働く人の資本主義

このように見てくると、外国と日本とでは、そのスタートも、できあがってきたものも、まるで白と黒の違いがあるんです。したがって、こういう外国人にとって、日本の無我無私なんて考えはなかなか理解できない。

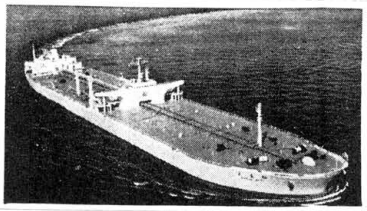
たとえば世界に運動をしているMRA運動（道徳復興運動）でも正直、純潔、無私、愛という四つの柱を立てて、無私を他の三本の柱と対等にみている。私に言わせれば、無私であれば、そこから正直、純潔、愛というものは出てくる。ところが外国人は我欲から出発しているから、無我無私、全体のために自己を超越するということがわからない、それでそれらを同等に並べているわけです。

私がスイスのMRA本部でそういう話をしたら、なるほどと言っていたが、この無私一つをとり上げても、外国人にはわからない。日本民族は理屈はなくて、無私のあり方、すなわち、お互いということを実行している。それが私どもの経営にあらわれてくるということではないかと思うんです。

質問　出光さんは、外国は物の福祉で、日本は心の福祉と言われますが、外国は外国で心の福祉を追求しているのではないかと、思うんです。問題は心の福祉の内容が外国と日本と違うのではないでしょうか。外国人が心の福祉という場合、それはあくまでも個人の心の福祉、人間個人が神から与えられる福祉です。人間個人が信仰によって救われることが心の福祉です。お互いの幸せという意識に乏しい、その結果、個人の憧憬はどこまでも追求していく。個人あっての全体だという考えにつながっていくと思うんです。ところが、日本人は個人よりも全体の幸せ、お互いのために仲よくというところに心の福祉を求める。外国も、日本も、中身は違うが、心の福祉というものをひとしく追求しているのではないでしょうか。外国は物の福祉、日本は心の福祉と、はっきりわけることはできないんじゃないかと思うんですが。

出光　例外をつかまえてくると、日本人でもエゴイズムのひどい人は外国人よりひどいですから、例外は別として、原則的なものを論じなければなりません。

それから最初にも言ったように、世界は交通の発達によって、昔と今日では根本的に情勢が変わってきていることを忘れてはなりません。昔のように異民族間の交流が少なくて、旅行するにも一カ月も二カ月もかかるということなら、ヨーロッパはヨーロッパ、アメリカはアメリカ、日本は日本というように放っておけばよい。同じ民族間の対立闘争はだいしたことはない。ところが今日のように世界が狭くなったところに、百以上の異民族が雑居していて、一方で核兵器というものが開発された以上、もう対立闘争は許されない時代に入っておる。このまま放っておけば、人類は全滅する。すでにそういうところに追い詰められているんです。それを解決するのは個人の幸福の追求でもなければ、天にますます神の教えでもなく、物の福祉でもない。お互いに仲よく助けあう以外にはない。



福祉ということは、お互いに平和に仲よくするという簡単なことです。和すなわち福祉ということですね。ところが、今日の世界は福祉を論じつつ、対立闘争している。これは根本的に大きな矛盾じゃないですか。外国はさっきから言うように、和ということを知らないんです。したがって、日本民族が祖先から教えられ、数千年実行してきた心の福祉、和のあり方を外国人に示して教えてやるということですね。

さいわい私が日本民族のあり方、和のあり方を五十数年間実行してきて、小さいながらもその見本が試験管のなかにできあがったように思うから、これを見てほしいということです。理論でなくて、実際の問題ですね。これは哲学や学問でいくら論議したって駄目だと思いますね。

2　心の安定こそ真の福祉である

質問　「衣食足って礼節を知る」という言葉があるように、物の福祉も第二義的ということではなく、心の福祉同様に重視すべきものであって、物心両方があいまって人類の福祉というものが達成されるんじゃないかと思いますが。

出光　さきほどから言っているように、福祉というものを心の福祉と物の福祉と分けて考えると、物の福祉ももちろん必要です。しかし、物の福祉というものは、享楽をすることではない。それに関連して、私どもの体験を言いますと、私どもは戦後十人の社員をかかえて石油カルテルの圧迫と戦ったが、十数年間、みんなで極度の耐乏生活をした。誰も不足を言うものがいなかったのみでなく、今日では過去のそういう体験を楽しんで語りあっている。私どもから言えば、耐乏生活もまた生活の安定であり、福祉であるということがはっきり断言できる。

享楽は生活の不安定を招き破滅ですよ。社会は人間がつくるものであって、人間が中心である。だから金とか物、法律、規則、主義、理論といったものは、人間がこれらを活用すべきものだと思います。人間がまず第一であって、物は人間の共同生活を豊むうえにおいて必要であるから、それを生かして使うということです。

ところがそれを生かすどころじゃない。人間がひきずりまわされて、いまでは物のほうが人間のうえにありはしませんか。私はこれを物の奴隷になっていると言っているんです。ここに今日のように、主義が人間のうえにあって、主義にとらわれて、対立闘争するのは馬鹿げていますよ。人間が物、金、法律、主義、理論といったものを活用して、そのいいところをとり、悪い面が発揮されないようにするところに、人間の尊厳がある。目標は平和に幸せに暮らすということであるから、それには物の面からも幸せにしなければならん、規則も法律も組織もある点までつくらなければならん。主義、理論もお互いに論じあっていかなければならんということなんです。

あるということを強調しておきたい。

企業を経営するものにとっては、真に有効適切な実行、実践がその主だった目的であり、われわれにとって役に立つ理論とは、こうした成功をおさめた実行にもとづく理論以外のなにものでもない。

P・Fドラッカー

（つづく）

経営とは何か

PFドラッカー

より社会に対して貢献せよ

ところが世界の倫理について貢献してきた諸賢の教えには、必ず倫理的な行為というものは、他に対する貢献はこうあるべきだということよりも、こういったような機会が与えられて自分に対して貢献することができる、というものの考え方を強調していると思われる。この考え方が妥当であるということを立証するのは、自分の仕事というものと、それから自分の廻りの環境というものの関連を考えねばわかることである。

こういった経済環境においては、より強力的な、より適足した一つの答になるという機会を求めていくことによって、全体の発展と全体の改善というものが行われるという点に気づいていなければならない。

私がいわんとしていることは、いろいろとオポテュニティ＝機会がある。この面にもオポテュニティがあって企業経営者がそういった機会をとらえることによって従来よりもより大きな、より適切な、しかもより多く自分の企業に対しても、また外部に対しても貢献の度合の大きい人間になり得るということである。

企業経営者というものが、社会的な成功をおさめたグループは、必ず自分のやっている仕事、自分の立場というものについて非常に真剣に考えぬいて、そして慎重にものごとを行なった人たちであることがわかる。しかもその仕事をする場合において、その仕事の重要性というものを大きく見て、そして仕事を進めていく。そのためにそれだけに自分たちもより大きくなり、また自分に対する自尊心というものも大きく発展したということがいえる。

今後マネーシャーとして、この仕事につく場合に、もっとも自分にとって満足であり、また自分の思い通りのことがなされ、そしてしかも国家、あるいは企業体、あるいは環境に対して大きな貢献をできることが必要である。企業経営にとって将来に対する最大の責任で

第一〇三回　宗像大社歌会詠草

毎月十五日〆切　詠草到着順

名残　竹原　圓　　吉田　占部　由久

農業をせぬ子は今日も出でゆきて今年は妻と裏の柿もぐ　村山田　吉田佐市郎

連らなりし稲架も昨日にけりきえて柿の実赤く秋は暮れゆく　戸畑　安川　浄生

昏れ近く藁焼く煙一筋の流れとなりて刈田這ひゆく　田熊　岡部　住雄

願望は己れのでなく全愛の神の願ひであれと反云ふ　香椎　桜井　ツ子

散りかかる蕎麦あつめつつ声あぐる稚ごころよ風のなか馳けて　徳重　滝口　千代

日毎日毎しるし記の紙数も残り少なく年くれんとす　福岡　麻生　初栄

人類が足跡しるせし月なれどならわしなれば今も行く　津屋崎　麦野　時雄

秋深み落葉散り敷く軒先に大つわぶきの蕚花咲き映ゆ　門司　永島　哲夫

留守居なる風呂に倒れて幾時間経にけむと矣まなこ瞬らす　宮田　北原　君子

川堤の芒の白きが揺れしてその下蔭に蓼咲沙蘭咲く　武丸　原田　リノ

丁寧に草より掘り出す都府楼の礎石千年分の目に会ふ　香椎　織田　椽雨

みたらしの水くたきてさと入がゆかなる年の明もうでする　大井　吉田ますみ

何時しかに並べる稲架も数減りて小田の夕べれ冷えせまりつつ　福岡　江崎　琴子

年分て庭の小石の数々もところ得がほに苦むしてあり　津屋崎　芹野フサ子

吾子吉きに就職案内今日も来ぬ冷雨ひた降る暮の命日　吉武　白木うめの

大雨に落ちし椎枝とり除きみ社に吾子の合格祈る　福間　森　八蔵

幾千代の神の秘られし文化財宝庫に積もる年を迎えん　久留米　篠田太郎坊

うぶすなの社を遥かに浮かべつつ拍手を打つ古人われは選挙戦商戦とだらりや春にしのぎをけする年の暮かな　大井　安部　重郎

北上の川の流れのゆるやかに芒早の山は今日も晴れにき　大井　安部　静子

渋民に訪れ来てみれば小春日の青める丘に啄木の歌碑　宮田　片山　朔子

望み得ぬことに定めいしも転勤に生活還へりぬ母子三人の　武丸　立石　昇

庭園の芝生を掃けば冬霜遅れし蛙のろく跳びたり　原田　中村　幸

真白なる雲に乗り灰色の雲ゆるやかに動く冬空　陵厳寺　真鍋　万三

春空に赤く熟せる味柿を正月帰へに置採まれて行く　武丸　立石ろせの

落葉深き山の斜面に腹這いて山芋掘る子の器用さを見る　戸畑　藤井　孝子

庭先の蓉り過ぎて山茶花は暮れ行く年の記るべなりけり　平井　土性　とよ

掘の照明灯は如く小波に揺れて立ちたる水底深く　深田　中野　節子

水湯れし河底のくぼみに屯（たむろ）して幾日生きむか蟹の殻白し　東郷　藤崎　辰子

炭焼節に唄い継がれし煙突の崩れ落ちゆく瞬を見る　大井　村山　幸生

跡つぎの子の励ましと機械化の波のまにまにコンバイン購ふ　田熊　鷲頭かつ代

をみなわれ年立つ朝をよそほふと黄はめる髪おんごろに梳く　田久　小方　実

七に生きるものの一いのちを刺す如く生産調整迫られて来ぬ　田熊　小野角次郎

伏戸繰る妻の瞳のかがやきてものみな夜の雪化粧する　田熊　小野かをる

蓬来の山水床に松竹梅生けて喜家に春を待ちをり　田島　吉武　武雄

牡丹雪降りつむ今宵あすまなかいとし吾子は如何に過ごむ

新年おめでとうございます

○玄海国定公園の中心……風光明媚……生魚料理……宗像大社からバス五分……神湊旅館組合

あけぼの荘　電話神湊66番
高嘉旅館　電話神湊50番
千成旅館　電話神湊6055番
望波亭　電話神湊111番
千鳥荘　電話神湊63番
玄海旅館　電話神湊193番
大島屋旅館　電話神湊31番
魚屋旅館　電話神湊22番
喜楽旅館　電話神湊19番
みなと荘　電話神湊56番
松風荘　電話神湊120番
友楽旅館　電話神湊6114番
泉館旅館　電話神湊35番
玄洋荘　電話神湊172番
川口屋旅館　電話神湊48番
勝浦荘　電話神湊6170番